

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
☎ 042-795-7361 (FAX: 必
要に応じて186を頭に加える)
議会 042-724-2171
yoshidaben@gmail.com



保育料の無料化、補助拡大施策

第3回定例会の初日、保育支援措置に関して、その日に審議し、結論を出す補正予算案(補正第4号)がありました。今年の10月からその施策を実施するための議会審議日程の措置ですが、以下の内容でした。

子育て支援策の充実化の一環として、保育所等を利用する多子世帯の負担を軽減しようというものです。2019年に始まった国の制度で、3歳児以上、及び非課税世帯の0-2歳児は無料となっています。また、認可保育施設利用者の世帯において、多子世帯に関する支援施策で、第2子は半額、第3子以降は無料に改善されていましたが、新たに、第2子に対しても、無償の対象に変わりました。他方で、認証保育所を利用する世帯に関しては、認可保育施設利用者のように無償化の方法ではなく、一律2万円の補助であったものが、第2子、及び第3子以降、一人につき、4万7千円の補助に変わります。無償となる認可保育施設利用者の世帯に比べると、一定の負担が残るものと思います。希望しても認可保育施設に入れず、認証保育所を利用する世帯に関しての差は完全にはまだまだ埋められたとは言えないでしょう。



子どもが無料で利用できる、芹が谷公園の噴水プール

第3定例会：一般質問と決算審査の概要

今期は一般質問を5問提起しました。大半は、この7-8月の間に市民の方から要望や提案があったものです。①消費生活センターの今後の事業は ②芹ヶ谷公園の日本三大桜は来年も無事に開花しそうか ③小野路球場の鳴り物はいつの間に禁止になったのか ④町田市の他自治体への災害支援の成果について ⑤まちだテクノパークの企業と町田市の連携はあるのか と言うものです。その質問内容と結果については、次号、及びその次号で掲載させていただきます。



小野路球場はブラスバンドがまた不可に

決算審査は、2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日)の予算の執行に関する決算内容の報告と監査委員の監査結果を受けて、それぞれの所管委員会(吉田つとむの場合、健康福祉常任委員会に2024年の第1回定例会直前まで所属します)で審査をすることになります。担当は、地域福祉部、いきいき健康部、保健所、町田市民病院となっています。この中で、最後の町田市民病院に関して、地方自治体の公共性と独立採算制による企業経営のような経済性を兼ねた組織体となり、議論は経済性を意識したものになります

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田市内企業が開発した「水耕栽培メロンの世界一決定戦」を開催しよう!

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしました

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、
夏季の第52期生をスタート

芹ヶ谷公園の日本三大桜、一種が枯れる

芹ヶ谷公園は、町田市内の中で桜の名所でもあり、その一部に、日本三大桜(福島県田村郡三春町の三春滝桜、山梨県北杜市武川町の山高神代桜、岐阜県本巣市の根尾谷淡墨桜)が植えられた一角があります。それぞれの名所の銘木からその子孫樹を直接いただいたものですが、その中の一本を枯らしてしまっています。枯れたものは、その筆頭に挙げられる「三春滝桜」ですが、そのまま放置されており、他都市との良好な交流を考えれば由々しき事態です。

そこで、今回の一般質問の項目の一つに、「芹ヶ谷公園の日本三大桜は来年も無事に開花しそうか」を入れました。当然、今のままでは来年に「三春滝桜」の花が咲くはずありません。本来は、それに気付いた時点で、代替品の子孫樹を取り寄せの依頼をするなりの手段が講じられるべきですが、現在まで放置した状態になっています。今後、そこにそのまま植え直すのか、それとも植え付け場所を変えるなりの方法を取るのか、町田市が早急に決め、相手の自治体に十分な説明をして新たな子孫樹を分けていただく手はずを施し、芹ヶ谷公園の華と言うべき、日本三大桜を早急に回復して、桜の季節の名木の復活してもらいたいと提起するものです。



人形は人の考えや心理を表す

8月には、渋谷区立松涛美術館を見学しました。催事は、「私たちは何者?ボーダレス・ドール展」と言うタイトルでしたが、場所柄、かつ、展示品の対比が哲学的な思考を持たせるものでした。人形は人類にとって石器時代から見近にあり、親しまれたものと同時に、人の代わりをしてくれるものでした。また、形も板状のものから立体へと進化してきたのですが、一般の生活の中では節句人形として数百年の伝統を伝えています。日本人形や博多人形はその精緻さを競うようにして極限まで至り、人形が民具の類から芸術の領域に至る作品も生まれています。ただし、一般の日本人形、博多人形は生活様式が和風から洋風に変化する中で、極端に衰退して行きました。



他方で、人形はフィギアとして人の生活、趣味の世界に広がり、子どもの玩具の世界まで広がりを見せ出しました。一方で大量生産品を生み出す中で、一品作の芸術品をも誕生させてきており、さらに、多種類のフィギア作品がデジタル作品の中で取り入れられ、新しい時代に人形が生き続けています。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2023年3月末までに104名が参加しました。
◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。